

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470200932		
法人名	社会福祉法人 東北福祉会		
事業所名	せんだんの杜ものうなかつやま認知症対応型共同生活介護事業所	ユニット名	
所在地	宮城県石巻市桃生町給人町字東町96番地2		
自己評価作成日	平成22年 8月 26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

せんだんの杜ものうなかつやまは、グループホームの他に同施設内で通所介護、基準該当短期入所生活介護、市の委託事業で放課後児童クラブの事業を行っています。
 これまで施設の中で活動してきた事を、地域に出て行い、地域の方々と楽しみながら自然な交流を持ち、併せて認知症についての理解を深め周知する取り組みを行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成 22 年 9 月 10 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームで確認した優れている点は、次の3点である。①理念に掲げている「笑顔」を引出す実践のため、入居者に「昔の楽しかった思い出」を話してもらう、②「気づき」の機会を多く確保するため、外部評価、家族や職員の意見の他、施設内の他事業部門(通所介護・放課後児童クラブ)の職員からも意見を聞いて、これを入居者の人格の尊重や家族との関係作り等に活かしている、③ホームでは、施設の看板や入居者の表札は設置していない。これは「一般家庭ではこのようなことはしていない」という家庭と同じ環境作りへの姿勢からである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 せんだんの杜ものうなかつやま)「ユニット名 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は皆で話し合い作り、来訪者や職員の目につく玄関近くに掲示している。日頃のケアや地域とのつきあいの中で理念を大切に、会議などで振り返りをしながら、共有し実践に努めている。	一昨年、独自の理念を作成した。「入居者の笑顔」が理念のキーワードである。昨年の見直しでは「笑顔」を引出す方法等を検討した。しかし、結論は出ず、入居者への関わりの中で職員が工夫していくこととした。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	特別な事をするのではなく、地域の一員としてあいさつから継続した交流が少しずつ広がってきている。地域行事の参加、近所の商店を利用するなど、事業所から積極的に地域と付き合うきっかけ作りを心掛けている。	消防訓練への住民の参加、ホーム便り等の各戸配布、地域の公民館で開催される歌・舞踊・体操・食事会への出席、お祭り・清掃への参加など地域との交流は活発である。散歩、買物、理美容等を通じての交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設スペースを地域の方に開放している。また、地域の会館を借用し、楽しく心掛けた交流や認知症講座を企画し実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取組みや様子等を報告。地域と事業所の情報交換を行いながら、地域全体の動きや課題についても話し合われている。委員の方々には事業所の地域活動の際にも協力頂いている。	運営推進会議は、2ヶ月に1回の開催を目安にしている。お便りの各戸配布や公民館での地域との交流等は参加メンバーの意見を反映させたものである。地域包括支援センターは毎回参加しているが、市の参加はない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時のみの関わりで、普段からの協力関係というところまでにはいたらず、今後の課題である。	市から介護保険の実地指導や更新手続き等を通じての指導がある。また、今回の外部評価でも同行した市の職員から運営について助言を受けている。しかし、運営推進会議に市が参加したことはない。	運営推進会議に市が参加していないのは、ホームが参加を働きかけていないことによる。市では「参加依頼があれば出席する」と述べているので、今後の取組みを期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の施錠はしていない。バックアップ施設と共に身体拘束委員会を定期的に行っている。外部研修に参加し、会議等で報告するなどし、理解と実践に努めている。	夜勤者の出勤する午後10時頃までは施錠していない。外出傾向の入居者も数人見られるが、近隣住民や交番の協力の下に見守りを徹底している。近くにある同一法人の特養が毎月開催している「身体拘束委員会」に出席し、拘束しないケアのあり方を協議している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修等で学ぶ機会を持つようになっている。職員一人ひとりが知識を共有するよう、研修報告の場や皆で話す機会が必要である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議等で包括支援センターの職員から制度について話してもらっている。他に研修で知る機会はあるが、実際として活用する機会無く、具体的内容の理解や職員全体の理解には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書をもとに説明し、大切なところ、入居までの準備、確認事項など個別に資料を作り行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族交流会でアンケートをとったり、家族から話をしてもらう機会を設けている。面会などでもできるだけ意見や要望を頂けるようアプローチし、職員同士で相談し話し合い、応えていけるよう取り組んでいる。	面会等で家族から出された意見は、それを集約し、その対応結果を家族交流会の席上説明している。例えば、終末期ケアのあり方、防災体制の整備、緊急時の対応などで、この他車椅子操作の実習も行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティングや定期会議等において意見を出し合い事業所運営や利用者のケアにつなげている。	ホーム会議や通所事業等も含めた全体会議で職員の意見を聞いている。運営に反映させた例は、記録様式の簡素化、観光地への旅行の個別支援がある。デイ職員との意見、情報交換の場で話し合う中から気づき、改善につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれが、仕事に意欲や向上心を持ち続けられるよう、介護現場以外で自分を表現できる場や、企画書等の作成など個々が責任を持ち行う場面を、職員の状況に合わせて実施するよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	育成プログラムはあるものの実施できずにいる。新人職員に対しては、内部研修等活用し学ぶ機会を積極的に設けているが、中堅職員の育成が今後の課題。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年度グループホーム連絡協議会に入会し、他施設と交流する機会が増えた。管理者のみの交流にならないようブロック研修等には介護職員も参加できるよう努めている。リーダー研修等を通じて知り合った同業者と交流する機会を増やしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者のもとを訪ねたり、事業所に来て頂き一緒に過ごす時間を作り、少しずつ人と場所になじんで頂けるよう配慮し、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には、家族と話す時間をつくり、情報や意見、要望を聞き、安心して利用して頂けるよう職員一人ひとり把握し、ケアに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の対応時は、本人や家族の状況を把握し、グループホームの案内と共に、必要に応じて他のサービス等を紹介、説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の意志や要望を尊重し、それが成され活かされるようサポートし、利用者、職員互いの喜びとしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が散髪に来てくれたり、定期的な帰宅の機会を作ったり、職員は利用者と家族の時間を大事に考えサポートしている。日常的には、家族に情報を伝え意見を頂きながら、理解や協力をして頂けるよう関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	兄妹との食事会や娘さん宅への訪問、馴染みの床屋へ行くなど、関係が継続できるよう努めている。	娘宅への訪問や兄妹との食事会への参加、散髪やパーマなど馴染みの店の利用等、これらの関係が途切れないよう支援している。疎遠な関係にある親族への手紙には、本人の元気な様子を伝える写真も同封している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	グループホームの空間だけではなく、デイサービスや学童保育など、同施設内で実施している事業所の利用者と関わりを持ち、それが日課や生活の楽しみとなるよう配慮し努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により退居になった方へも、定期的に足を運んだり、家族に様子を伺う連絡を入れたりし、出会った関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の関わりの中で聞く、利用者の言葉に耳を傾けるよう努めている。家族の情報や意見等も聞き、ケアプラン等に反映させている	本人の思いを把握するため、笑顔を引出すことを心がけている。職員のヒヤリングでは「昔の農作業の様子」を聞き出したところ、その様子を笑顔を交えて生き生きと話してくれた。ご本人の体験をケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日頃の談話の中で、その方の昔の暮らしの様子や思い出、希望など聞くことが多く、アセスメント表を用いて職員間で把握し、生活歴や価値観等大切に暮らしをさせるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	過ごし方が平坦になりがちだが、利用者一人ひとりの喜びや、出来る事、したい事を日常生活の中から見つけていき、それらが成し遂げられるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に利用者個々の希望や現状把握、家族の要望をまとめ、職員間でも話し合いを重ねながら、介護計画をたて実践している。	加齢による変化等により、計画の見直しや家族等の意向の確認は定期的に行っている。筋力や食事の低下等が見られる入居者の例では、好きな歌・化粧、おやつの取入れなど、生きる喜びを重視した計画に変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの毎日の様子や気づきを記録し、職員間の情報交換、介護計画実施確認にいかしている。記録様式も見やすく、把握しやすい工夫をはかっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同施設内のデイサービスへ行き交流をはかり、近所の方への配食サービスを行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のサークルの方々や学童保育の児童、地域の商店などの利用、時には地域の会館での催し物に参加し住民との交流や楽しみを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員は日々の体調に関する記録を行い体調の把握に努めている。適切な受診がうけられるよう、医療や家族と情報交換を行い、通院介助等も行っている。協力医より月1回の定期往診をして頂いている。	かかりつけ医での受診は1人で、他は家族等の同意を得て協力病院で受診している。病院への付き添いは家族と相談した上で臨機応変に対応している。受診結果の情報はホームと家族で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バックアップ施設の看護師や、協力医の看護師に相談、アドバイス等の協力を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には定期的に足を運び、本人へのフォローや家族、病院双方と情報交換ができるよう工夫し努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	介護計画作成時等の機会に少しずつ家族に確認している。事業所のできることの説明は、まだ不足しており今後の課題である。	前回の外部評価の指摘を受けて、家族交流会で「看取りの指針」を説明している。現在、終末期ケアを要する人は見られないが、家族の意向ではホームを終の棲家と考えている人が多い。しかし、看取りの実施までには医療面や職員研修等の課題が残されている。	看取りのケアには、医療体制の整備や職員研修の実施等受入れのための準備が必要となっている。入居者や家族のニーズを汲み取りながら、段階的にその体制を整えていくことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が対応できる訓練については不足している。医療機関から来る広報誌を回覧したり、感染についてや利用者の病気の変化等に備えた勉強をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々に協力を得て、避難訓練を実施できた。	避難訓練(夜間想定訓練も含む)は年2回実施しており、消防機関、近隣住民、ボランティア団体も参加している。スプリンクラー、自動通報装置、火災報知機を設置しており、非常用食料・飲料水・備品も準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりのペースを大切にし、気づき等あれば職員間で情報交換し支援している。長い付き合いの中でつい慣れ合いになってしまう部分もあるので、注意していきたい。	本人を尊重した呼び方を徹底している。施設内の児童クラブの子ども達と馴染みの関係にある男性入居者の場合は「じいじ～」と愛称で呼ばれている。入居者との関係が慣れあいにならないように職員間でできをつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人のペースでゆっくり関わり想いを聞くようにしている。もっと利用者の希望や生活の楽しさが広げられるよう、アプローチの工夫を図っていきたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者によっては、生活の中で楽しみや存在意義を見出している方もいるが、そうでない方もいる。利用者の気持ちを汲んで支援することで、一場面でもいいので、その人らしさを見つけていきたい。それが職員の力と		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	パーマや化粧、服や身につけるもの等、本人の好みや希望を尊重し、支援するよう心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	四季のものや、地域風習の食べ物、利用者の好みの物等、希望を取り入れた食事の提供をしている。買い物や台所仕事等一緒にやっている。	食事は入居者と職員が同じ食卓で同じものを食べている。地元の野菜(小ねぎ)や今夏のように猛暑の時は酢の物や生姜も取入れている。献立は法人栄養士の指導を受けながら季節感や本人の好みを重視している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	疾患た体調等に合わせて、水分量の調整や食事の対応をはかっている。自分達の作る食事について、振り返る機会を作っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力医の歯科検診を行って頂いた。昼の口腔ケアなど一人一人まで、できていないところもあるので、検診の結果等参考に今後のケアにつなげていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をつけ、個々に対応し心地よく過ごせるように支援している。	尿意・便意のサインを見逃さず、極カトイレで排泄できるよう支援をしている。便秘には下剤使用よりも乳製品・植物繊維の摂取や腹部マッサージを心がけている。夜間は必要に応じポータブルトイレの使用を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	健康状況を連絡し合い、排便を促す食材を取り入れたり、日常動作の中でも意識して運動を心掛けている。便秘についての勉強会を行った。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の心身状況の変化もあるが、以前に比べると、入浴の時間や日がある程度決められてしまっている。その中でもゆっくり一人ひとりが入浴できるよう心掛けたり、就寝前の足浴を行う等の対応を図っている。	以前は朝風呂や夜間入浴の例も見られたが、最近は午後に入浴する人が多い。入浴できない場合は安眠できるよう足浴をしている。入浴を拒む人には、好きな動物の絵柄が入ったタオルを使用する等の工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースに合わせた起床、就寝時間である。居室の温度、湿度管理や生活習慣に合った寝具を使う等、環境調整にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬変更や追加時には、職員への周知を徹底し状況観察して、医師との情報交換も行いながら、適切な服薬になるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事仕事や学童の児童との触れ合い、趣味、音楽等生活の張り合いや、個々の喜びのある物に触れて頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩やドライブ、買い物等出掛けたり、日頃外出の機会が少ない方でも、遠方の家族のもとを訪ねたり、観光地で家族と食事したり、兄弟で食事をする時間を作ったり、記憶に残るような外出の支援をしている。	日常的には散歩や買物が中心である。季節的には周辺の景勝地にドライブに出かけ、「道の駅」でアイスクリームを食べるのを楽しみにしている人もいる。本人の希望により、家族との外食、遠方の自宅へ墓参を兼ねた日帰り旅行などの支援もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で財布を持っている方もいて、安心感や買い物をする喜びにつながっている。必要に応じて、本人と一緒に出納帳を付ける等、トラブルのないよう配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りは少ないが、友人や施設を活用しているサークルの方との年賀状や暑中見舞のやり取りをしたり、遠方の家族や地域の方から絵手紙が届いたりしている。職員はこのような関係が継続出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や子供達の絵、思い出の写真、一緒に正月飾りを作ったり、季節感、生活感のある雰囲気づくりをしている。	熱中症予防のため内部の温度管理等を徹底している。居間では入居者が身体機能に合わせて椅子、座椅子、掘りごたつ等に座りくつろいでいる。廊下に貼られた「入居者と児童クラブの子ども達の笑顔の写真」が周囲を和ませている。コーナーには休憩用のソファもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	パブリックスペースを個々に利用されている利用者や、家族の姿が多くみられる。思い思いに過ごしている方々の把握も職員が気を配るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いたれたものを持ってきている方、そうでない方半々といった感じである。入居後の生活の中での思い出の写真を飾ったり、動きに配慮したレイアウトの工夫をしている。	居室の入口に表札はない。これは家庭と同じ環境づくりへの配慮からである。部屋には冷暖房、トイレが完備され、仏壇、お位牌、家族の写真等が置かれている。ベットは仏壇に向かって合掌しやすい位置にある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせ、手すりを設置したり、空間に目印も兼ねて、その人の好むものを飾ったり工夫している。さりげない気配り、目配りで安全に対するサポートを職員は心掛けている。		